

# 南の風日本男子W杯特集号

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

男子ワールドカップの特集号です。

日本の予選リーグ第2戦、チェコ戦です。残念ながら負けてしまい、予選リーグ突破が厳しい状況となりました。結果は、日本76-89チェコでした。(18-18、25-27、15-19、21-25)

感想を書きます。

## 《スタッツ》

	PTS	2 P	3 P	F T	OREB	DREB	T O
日本	76	28/45 62.2%	4/13 30.8%	8/18 44.4%	8	26	14
チェコ	89	23/47 48.9%	11/25 44.4%	10/14 71.4%	14	21	5

スタッツから見えてくる敗因は、3Pの確率の悪さとFTの精度の低さ、そしてTOの多さです。

日本の3Pシュート4本は、比江島(1/2)、田中(1/4)、篠山(1/3)、ファジーカス(1/1)のそれぞれ1本だけでした。試投数を見ても13回というのは少なすぎます。チェコは25回打っています。内訳は、11番6/7、17番4/10、8番1/4でした。

FTでは、2本連続で決めたのは、1Qの八村だけでした。2本続けて外すケースも一度ではありませんでした。また、日本にとって14回のターンオーバーは致命的でした。特にトランジションのつなぎやトラップされた時のパスミスが目立ちました。

日本の生命線でもある、『緻密にプレイする』(『シュートの精度』や『プレイの正確性』)というコンセプトが生かされませんでした。(ディフェンスについては後述します。)

リバウンドでは、OREBをもう少し取りたかったですが、相手の高さを考えれば、負けの直接原因にはならなかったと思います。

トルコ戦(86-67)の負けを払拭すべく1Qから気合十分で臨んだ日本でしたが、ゲームを通して一度も先手を取ることができなかったことが、もう一つ乗っていけなかった要因でした。

ここで日本男子の課題を挙げます。(あくまで私の考えです。)

## 《オフェンス》

### ① ボールと人をもっと動かす。(ハーフのエントリーからの攻めの時)

映像を観て気になったのは、ガードがボールを持つ時間が長いことです。ガードは何回ボールを持ってもいいと思いますが、1回の持ち時間が長いとオフェンスのリズムが悪くなり、周りの合わせのタイミングがずれます。また、オフボールマンも動いてはいるのですが、意図的な動きが少なかった感じがしました。(合わせのプレイの動き)八村選手にボール集めることは悪くありませんが、単発で狙ってしまうと相手に読まれます。ですからパスを回して(ディフェンスを動かして)ポストの八村選手に入れると1on1をやり易くなると思います。

特集Ⅱ号に続きます。